

IBC 岩手放送

活動名	IBC アナウンサー出前授業「ニュースの作り方」
実施期間	令和6年11月～令和7年1月
実施回数	学校訪問 3回

【実施学校】

九戸村立長興寺小学校、盛岡市立大慈寺小学校、盛岡市立城南小学校

【事業実施の成果・課題】

<九戸村立長興寺小学校>

今年度で閉校する全校児童30人の小学校。1年生から6年生まで一つのホールに集まったの授業。低学年の子どもたちにも分かりやすい話を心掛け、情報を発信することの責任について説明し、発信する側も受け取る側も注意が必要と呼びかけた。学校からのリクエストで、恥ずかしがり屋の子どもたちに話し方教室も行った。声を出してコミュニケーションすることの楽しさや大切さを伝えた。

<盛岡市立大慈寺小学校>

5年生ということでニュースを見たり、関連する言葉を知っていたりする児童が多かった。ニュース作りに大切なことをVTRで見てもらったが、すぐに理解し、さらに気になる部分の質問も受けた。当日は盛岡で今シーズン初のまとまった雪が降ったので、雪が降ったらニュースでどんなことを伝えると、見ている人に役立つのかを子どもたちに考えてもらった。

<盛岡市立城南小学校>

授業前の「ネットとテレビどちらからより多くの情報を入手するか」のアンケートでは、ネットから情報を得るとい割合が多いという結果が出た。それをもとに行った授業の中で、ネットメディアとテレビなどのオールドメディアを比較し、ネットニュースでは速報性はある一方で、一方的な見方のみ報道することやフェイクニュース、考察のみの内容もあることを話し、情報を自身で取捨選択することの重要性や裏取りの大切さを伝えた。

【事業担当者・講師の感想】

・交通情報や今後の雪の予報など具体的に上がってきて、よく考えてくれているとうれしくなった。テレビに映ったことがある、インタビューを受けたことがあるのは嬉しい体験として記憶に残るようで、楽しそうに教えてくれた。

私たちは毎日いたるところで様々な人にインタビューをしているが、インタビューを受ける人にとってはめったにない機会であることを忘れず、丁寧に聴くことが大切だと改めて感じた。

・児童が疑問に思っていることは多岐にわたり、「普段のニュース項目はどのように編集長が決めているか」、「地震など起きた際に誰がどうやって対応するのか」「キャスターとしてコメントする上で意識していることはあるか」など児童が番組をどういう視点で視聴しているのかを知ることができると同時に、児童のテレビへの理解を深めることができた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

・子どもたちの表情から、ちょっと緊張したり、思い切って挑戦したりと、とても素敵な1時間になったことがよく分かりました。ホンモノから学ぶ貴重な時間でした。憧れをいただくチャンスをいただきました。世界が広がる「はじまりの日」になった子もいます。本当にありがとうございました。